

平成21年度 第6回 経済学教育FD/IT活用研究委員会 議事録

- I. 日 時：平成21年12月26日（土）午前10時30分～13時00分
- II. 場 所：私立大学情報教育協会 会議室
- III. 出席者：林委員長、中嶋、望月、山田、渡邊、児島、
井端事務局長、森下、恩田

検討事項 経済学の情報教育について

議題に入る前に分野別「学士力考察」の報告・提言について事務局より説明された。

その中で、新設される情報教育研究会との関係が明示され、今後の本委員会における検討内容の位置づけが明確にされた。

各委員から事前に提出された資料を元に、検討事項に関する意見の開示がなされた。具体的には、経済専門科目でのコンピュータ利用法、また、グループウェアを用いたゼミ学生との議論を活性化させる実践的なICT利用法などが報告された。ここで、学生には経済学を実感できるように実データを自分で入力する作業の重要性なども紹介された。

続いて、経済学部生が情報を活用する場合、実際の教育現場で見られる問題点を列挙した。例えば、レポート作成においてはWeb ページからのコピー&ペーストが多く見られ、適切な引用方法が身に付いていない問題が示された。また、経済データに対して、適切なグラフが描けない経済学部生が増えてきているという現状がある。このような問題に対して、数種類のデータを使い、繰り返しグラフ作成をするという実習科目を新たに設置し、学部生全員を履修させている事例も報告された。

具体的な検討内容については、「学士力の詳細設計」の5つの各到達目標を元に、目標は2ないし3に絞るとの方針を確認。また、情報教育研究委員会および分科会との兼ね合いから統計学などの内容だけにとらわれるのではなく、経済学の情報教育として「～が身に付いている」という表現が望ましいとの要請があった。修得すべき技能を到達度の中に織り込ませることに留意しながら、各種意見交換を行った。そして、別添資料の通り、2つの到達目標の概略までを委員会で検討した。

次回の委員会でこれらを最終決定する。

宿題

今回委員会で作成した案を元に、MLなど到達目標を議論する。具体的には、「到達目標」を策定し、「到達度」「教育内容・教育方法」「到達度確認の測定手段」の各項目を決定する。

次回の委員会

平成22年2月17日（水） 13時～15時とした。

H21 年度第 5 回経済学教育 FD/IT 活用研究委員会 宿題

「学士力」を実現するための情報活用能力，経済学における情報教育の到達目標などについて(情報活用力を経済学教育(学習)の中でどう用いるか，学生が身につけるべき経済学教育に特化した情報活用案など)

以下，到達目標に沿って，これらの目標を達成するために必要な情報活用能力について簡単にまとめます。

【到達目標】

1. 情報通信技術を活用して、必要なデータを収集・整理し、図形的な処理や統計的な処理ができる。

- (ア) 基礎的な用語や専門用語、経済事象や経済データを、信頼できる Web 上のサイトから検索・収集できる能力が身につけている。
- (イ) ダウンロードした経済データの信頼性を評価判断し、表計算ソフトで表やグラフを作成できる。
- (ウ) 身近な問題意識について、自分でデータを調査して収集・整理・加工できる。

2. 経済的な考え方や経済現象の仮説を、収集したデータを使って検討できる。

- (ア) Web にある経済データをダウンロードし、表計算ソフトで表やグラフを作成できる能力。
- (イ) 表計算ソフトの基本的な利用方法をマスターし、平均や分散などの統計処理ができる能力。
- (ウ) レポートや論文作成において、文脈に対応して適切に関連する表やグラフをわかりやすく作成・配置する能力。
- (エ) 過去から現在までの比較的長期の時系列データを収集，加工(グラフ化等)することを通じ，現在の経済情勢を分析できる能力。
- (オ) 官庁や自治体等の Web にアクセスし，制度について理解を深める能力。